

東レ株式会社

2021年3月期 第3四半期決算説明会(電話会議)
質疑応答要旨

日時:2021年2月9日
説明者:取締役 岡本 昌彦

本資料中の業績見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。
本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

<全般>

Q. 棚卸資産がかなり減少しているが、まだ在庫削減が必要なセグメントはあるのか？また、逆に在庫積み増しが必要なセグメントがあれば教えて欲しい。

A. 稼働調整を行い、在庫削減に取り組んでいる。年度末にかけてもう一段稼働調整を行わなければならない水準だと考えている。

炭素繊維複合材料は、在庫水準が高いので引き続き減産を強化する。減産率では全てのセグメントの中で一番高い。繊維は、例えば衣料用ナイロンの在庫水準が高いため、まだ少し在庫削減が必要と考えている。樹脂は、全般的に好調であり、需給はタイトな状況となっている。フィルムは製品によって強弱があるが、PET フィルムは概ね堅調。

Q. 自動車関連素材は、第 3 四半期に需要が回復したようだが、第 4 四半期も堅調な出荷が続くのか？

A. 自動車用途は、報道されているように半導体不足の影響を受けており、当社もスエード調人工皮革採用の車種が一部減産になるなど、影響はゼロではないが、現時点では限定的と考えている。エアバッグ等も現時点では顧客からの内示の変更はない。樹脂についても懸念はあるが、影響は受けていない。総じて言えば、自動車用途は第 4 四半期も堅調に推移すると見ている。

<繊維>

Q. 繊維セグメントの第 3 四半期の状況と、第 3 四半期→第 4 四半期の動きを教えてください。

A. 第 3 四半期は、衣料用繊維は、一部で好調なお客様もいるが、全般としては新型コロナウイルスの影響があり、店頭販売は振るわなかった。また、小売・サービス産業向けユニフォーム用途や、リモートワーク拡大によりスーツ、ドレスシャツなどのビジネス用途が苦戦した。2020 年春夏物のキャリー在庫があるため、2021 年春夏物も立ち上げが遅れ気味である。自動車生産台数が回復したこともあり、産業用途は堅調に推移した。人工皮革も自動車生産の回復を受けて販売が増加した。これらの製品は当初見えていたより上振れした。

第 3 四半期→第 4 四半期は、衣料用途が国内外ともにシーズンの端境期で毎年縫製品の出荷が落ちる。また、原料価格が上昇しており、海外中心にスプレッドが縮小すると見込んでいる。PP スパンボンドは、第 3 四半期までは極めて好調に推移したが、足下はマスク需要の沈静化もあり数量・スプレッドの両方で悪化を見込んでいる。

<機能化成品>

Q. 機能化成品セグメントの第 2 四半期→第 3 四半期、第 3 四半期→第 4 四半期の動きを教えてください。

A. 第 2 四半期→第 3 四半期は、樹脂事業で、ABS 樹脂が、中国市場の需要好調に加え、ASEAN 市場の回復もあり堅調に推移した。エンプラも、自動車用途の回復により堅調に推移した。ケミカル事業は、カプロラクタムの需要が徐々に回復した。フィルム事業ではバッテリーセパレータフィルムは、車載用途で欧州 EV 市場が伸長しており、欧州向け中心に販売数量が増加した。MLCC 離型フィルムは、第 2 四半期比横ばいで推移した。電子情報材料事業は、スマートフォン・TV 用途で、有機 EL パネルの需要が拡大した。回路材料は、スマートフォン用途の販売減の影響を受けた。

第 3 四半期→第 4 四半期は樹脂事業では、ABS 樹脂は、一部ユーザーにおいて春節に伴う生産調整の影響を受けることに加え、第 3 四半期まで高い水準にあったスプレッドが縮小する影響を織り込んでいる。エンプラは、自動車用途は概ね堅調に推移すると見てい

るが、半導体不足の影響が懸念材料となっている。フィルム事業は、PET フィルムがスマートフォン・TV 向けの需要が第 3 四半期比減少することに加え、海外子会社で原料価格高騰によるスプレッドの縮小が見込まれる。バッテリーセパレータフィルムは、第 3 四半期→第 4 四半期で販売量は拡大する見通し。電子情報材料は、有機 EL 関連材料や半導体・電子部品材料等が堅調に推移する見通し。

<炭素繊維複合材料>

Q. 炭素繊維複合材料セグメントの第 2 四半期→第 3 四半期、第 3 四半期→第 4 四半期の動きを教えてください。

A. 第 2 四半期→第 3 四半期は、航空機用途は、新型コロナウイルスの影響による大手顧客の生産機数引き下げの影響が続いている。一方、スポーツ用途は、三密回避でアウトドアレジャーの自転車・釣竿・ゴルフ等の用途が第 3 四半期に入って需要が回復してきている。一般産業用途は、風力発電翼用途が引き続き堅調に推移している。コンポジットは、新型コロナウイルス肺炎診断用の医療機器関連部材の出荷が堅調に推移した。第 2 四半期→第 3 四半期で売上収益は 17 億円の増収となったが、その内訳としては、航空宇宙用途が 13 億円の減収、スポーツ用途が 4 億円の増収、一般産業用途が 26 億円の増収となった。事業利益の悪化は、航空宇宙用途の減少の影響が大きい。

第 3 四半期→第 4 四半期では、航空機用途は、新型コロナウイルスの影響に伴う大手顧客の生産機数引き下げの影響が継続する見通し。スポーツ用途は、第 3 四半期に続き回復傾向。一般産業用途では風力発電翼用途等の需要が堅調に推移する見通し。また、原料の AN が若干上昇し始めているので、その影響を受ける見通し。

Q. 炭素繊維複合材料事業全体で増益に回帰するために、どのようなことに取り組むのか？

A. 風力発電翼用途の拡販に取り組むとともに、産業用途の圧力容器用途や土木建築等、航空機以外の用途を拡販していく。また、固定費削減に継続して取り組む。

以上